

ニホンジカの効率的捕獲の普及と地域性評価

予算区分：国庫 1 / 2	研究期間：令和元～3年度	担 当：企画・自然環境係 坂庭 浩之
---------------	--------------	--------------------

I はじめに

「長期定点捕獲法」について、ニホンジカを定点で繰り返し捕獲できる方法として技術普及した。この方法は初心者でも容易に取り組める方法で、県内において普及することが研究の目的となっている。

本年度においては、3つの内容について報告する。

- (1) 2事業者（川場村、赤谷プロジェクト）が長期定点捕獲法に取り組みを行った（図-1）。
- (2) 捕獲通報装置として、捕獲情報をTwitterに自動的に投稿するシステムを構築し実際の稼働を試験した。
- (3) 本法を広く普及するため、吾妻環境森林事務所において普及講習会を開催した。



図-1 職員による設置

II 方 法

- (1) 長期定点捕獲法によりシカの捕獲を行おうとする事業者（川場村役場、赤谷プロジェクト）に対して、設置の指導、通報装置の貸し出しを行い捕獲技術の普及を行った。本年度については、現地指導は行わず昨年度経験に基づき実施した。
- (2) 捕獲通報装置とした、Soracom Button Plusを活用し、Microsoft Azureにて通報システムを構築した。
- (3) 2021年3月3日に吾妻環境森林事務所が主催する長期定点捕獲法普及講習会にて、地元猟友会、森林組合等に対して、動画と説明資料により講習会を行った。

III 結果及び考察

- (1) 川場村、赤谷プロジェクト

川場村内1か所にくくりわなの設置を行った。わなの設置は職員自ら行い、継続的に捕獲を行った結果、3頭を捕獲した。なお、1頭については捕獲後に逃走してしまった。

赤谷プロジェクトについては、2週間の捕獲期間内に1頭を捕獲し1頭を取り逃がした。

いずれの事業でも捕り逃がしが発生しており、正しい捕獲方法として正確な手法を具現化できない問題が明らかとなった。①わなの設置方法、②トラロープの管理が捕り逃がしの原因であった。

来年度においては、動画を使った研修素材を準備し、再教育により捕獲の確度を高める取り組みを進める。

(2) 捕獲通報装置

見回りコストを省略するため、通報システムを新たに開発した。コンセプトは、「値段が安く・簡単に使えること」とした。

防水ケースとして、塩ビパイプを外装ケースを加工し低廉化を図り、通信用デバイスとしてSoracom社が販売する通信デバイス(Soracom Button Plus)を使用した。ワナと連動させる構造をとした。

動物が捕獲されると図-2によるフローにより捕獲通報装置からツイッターに情報を発信するため、特定のハッシュタグを共有することで、誰でも捕獲情報(図-3)を知ることができる特徴がある。ツイッターに投稿された捕獲情報は、通報装置の場所、管理ID、時間、電池残量が表示され、装置の電池管理にも可能である。単4電池2本で100回以上の捕獲通報が可能であるため維持管理コストも安く、1年で1,200円程度の通信料の維持費となっている。

Auが提供するセルラーLPWAを使用していることから、Au電話のネットワーク内であれば中継器等の設備も不要で「簡単に使える」を実現している。塩ビ防水ケース、通信ユニットを含めた製造コストは1.5万円以内であった。

(3) 長期定点捕獲法講習会

2021年3月3日に開催した講習会では吾妻猟友会会員16名、地元森林組合2名の参加を得て開催した。

普段から有害捕獲を行っている方々への講習であることから、ペーパー資料を少なくし、動画を使った講習会とした。10分間程度の3本の動画を作成し長期定点捕獲法の理解を深めた。①シカの特性、②餌の選択性、③長期定点捕獲法の3編を視聴し手法の理解に努めた。

動画による説明は非常に効果があり、パワーポイントを使った説明以上に高密度の情報を短時間で提供することから、緊張感が高い講習となった。

特に、捕獲技術において、元木とくくりわなを離すこと、胸腔内に放血することなど狩猟技術では活用されない技術を正しく理解してもらうために、動画は良い素材であることがわかった。今後、群馬県の公式動画チャンネルに掲載するなど、技術普及を進めることにしている。

なお、令和3年度においては、吾妻環境森林事務所管内で実際の捕獲を行うことで講習会の第2段を進めることとしている。

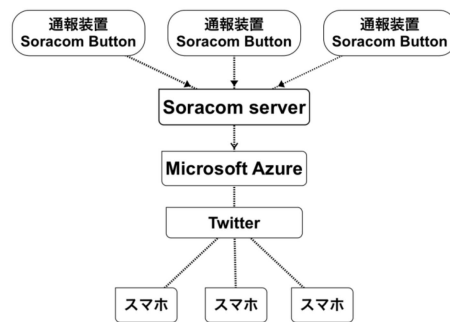


図-2 通報装置フロー



図-3 twitter画面



図-3 長期定点捕獲法講習会